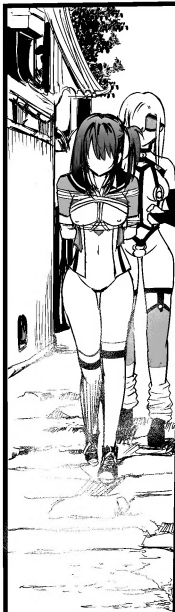
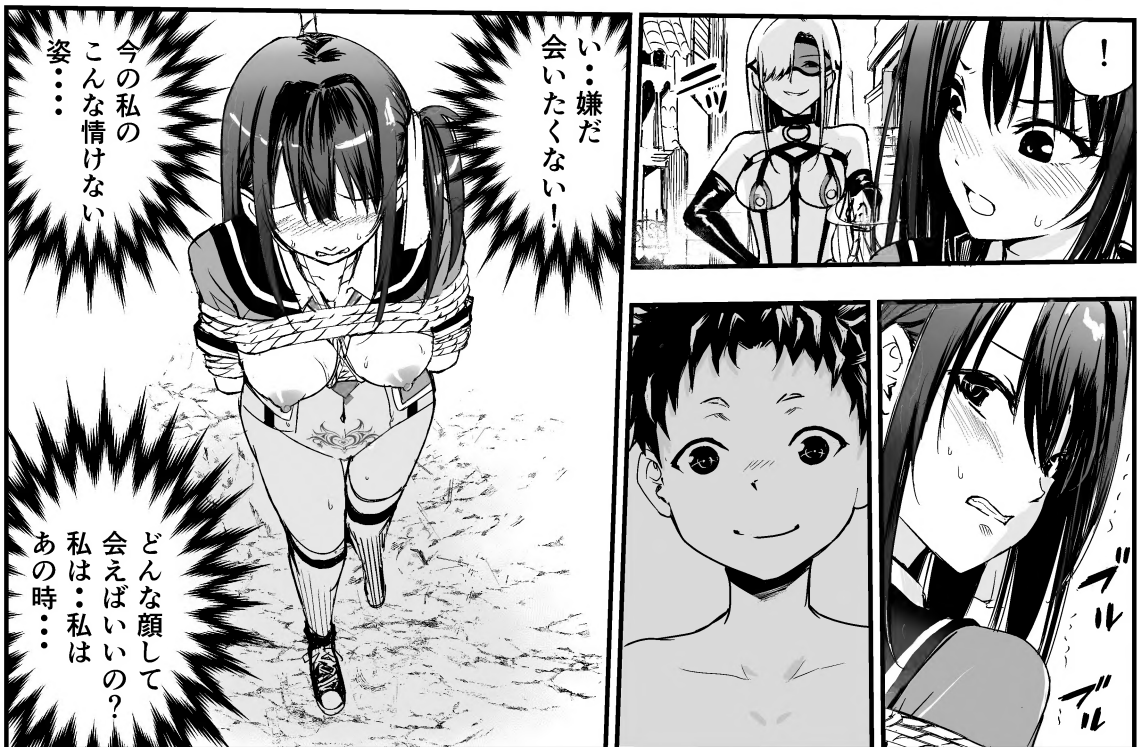
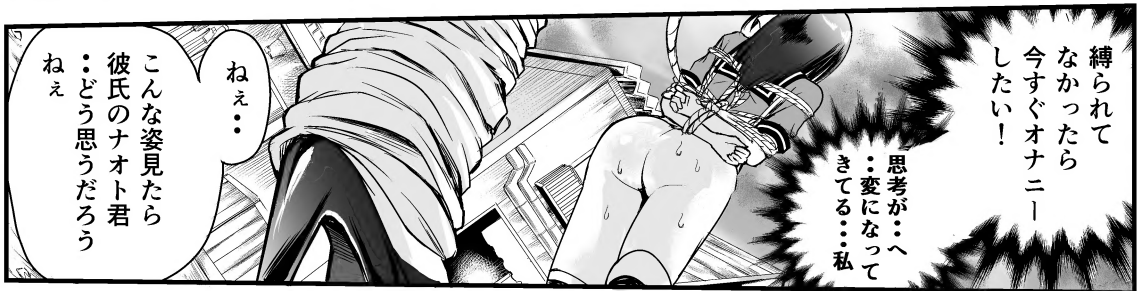
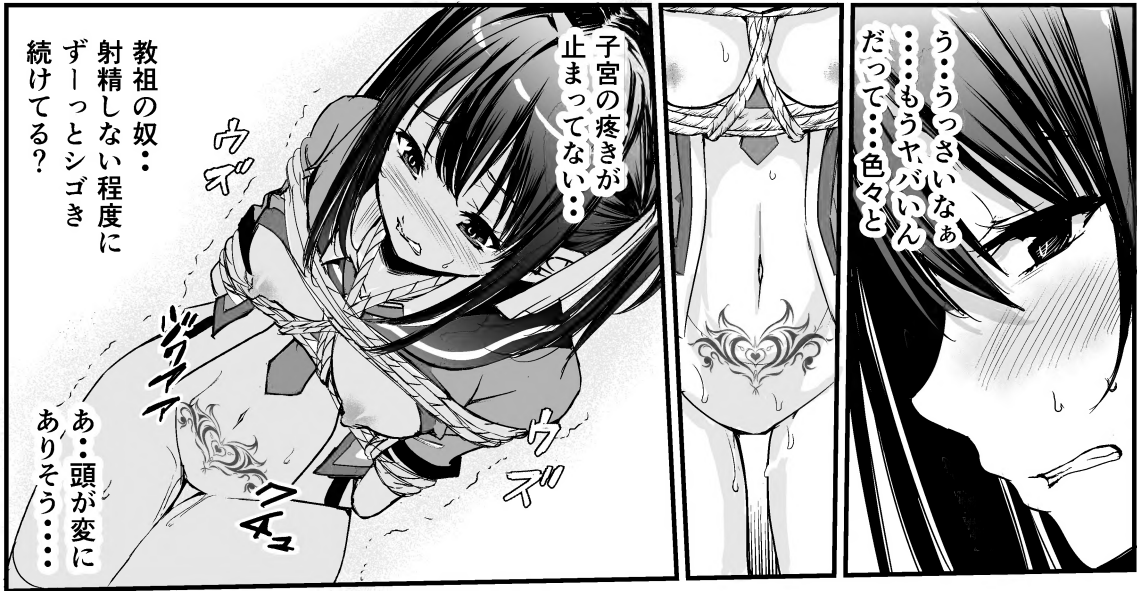
艶がり村
［つやがりむら］
五
レイドソックス
トリッキー

-あらすじ-
秘境探索に情熱を
注ぐ彼氏と共に
艶がり村へ
訪れたアヤミ

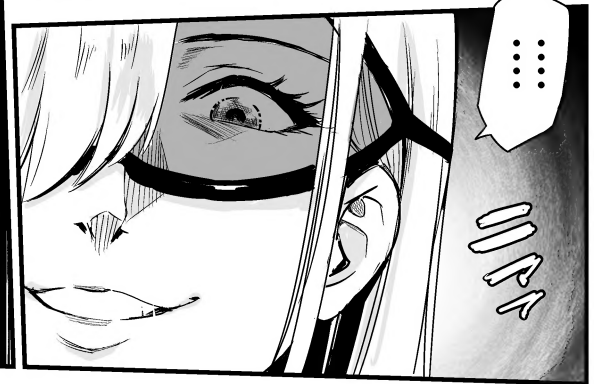
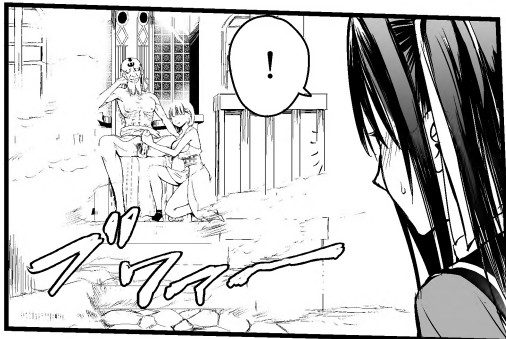
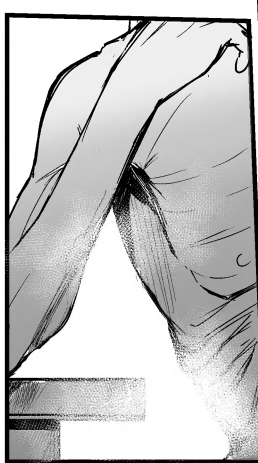
しかし快楽で村を
支配する教祖と
快感を共有する
呪いを受けて
しまう

村を脱出
しようと

教祖に反撃を
試みようとするも
彼氏のナオトは
行方不明

小柳商店
ギチ
ジリッ
ムズ
ムズ
あらあら・・・ムズムズが止まらないって顔ね
・・・・
私とのエッチじゃ物足りなかった？
大丈夫！もうすぐ教祖様に会わせてあげるから！
はむ♡
ビクッ
ふふふ
！

う・・うっさいなぁ
・・・・もうヤバいん
だって・・・色々と
子宮の疼きが
止まってない・・
教祖の奴・・
射精しない程度に
ずーっとシゴき
続けてる？
ウヴ
ジワァ
あ・・頭が変に
ありそう・・・・
ウヴ
クチュ

縛られて
なかったら
今すぐオナニー
したい！
思考が・・へ
・変になって
きてる・・・私
ねぇ・・・
こんな姿見たら
彼氏のナオト君
・・どう思うだろう
ねぇ

！
い・・嫌だ
会いたくない！
今の私の
こんな情けない
姿・・・・
ブル
ブル
どんな顔して
会えばいいの？
私は・・私は
あの時・・・

ナオトに助けを求めてしまった・・・・！

そ・・そうだ！
クルッ
ナオトは？
ナオトは・・どこにいるの？
安心しなさい
彼はアヤミを興奮させるいいスパイスだって教祖様が・・
ンおぉっ
ビクン
だからちゃあんと保護しているわよ？・・フフ
・・・・・・・・
ニィィ

……

ふぉふぉ・・・
お早いお帰り
じゃったの
・・・・
これは我も
予想外じゃっ
たわ
して？

なぜ村から逃げなかった？

一時でも彼氏と二人きり自由になれた

千載一遇のチャンスじゃったろう？

ん？

ナ・・ナオトのため・・・

・・・・

ここに来る前まで古い文献とか漁ってこの村の想像を膨らませてた

情報が少ない村だからこそ探索し甲斐があるって・・・

世界の秘境

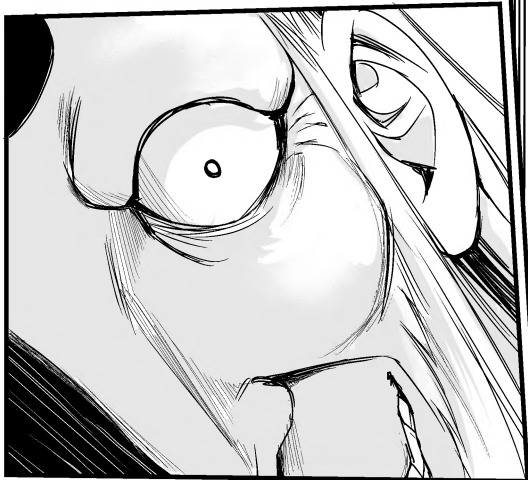
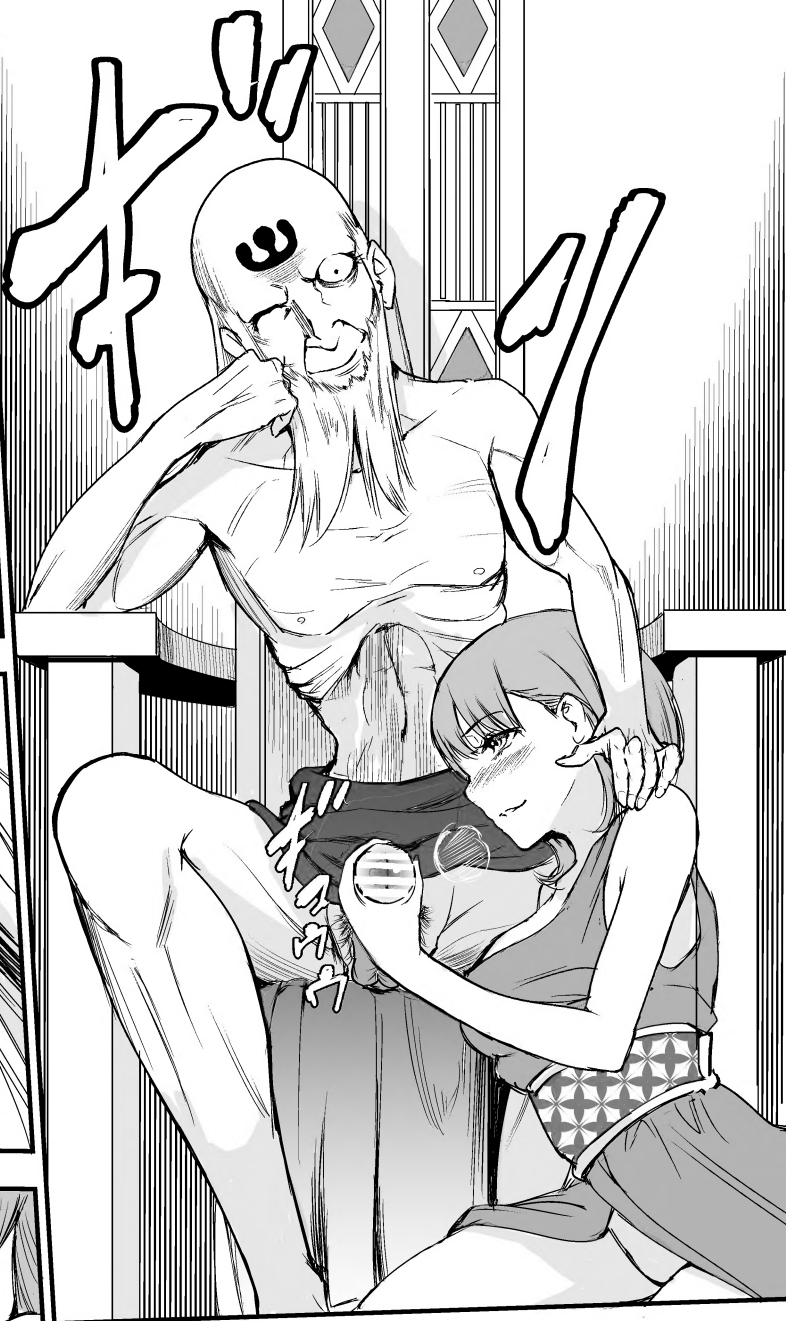
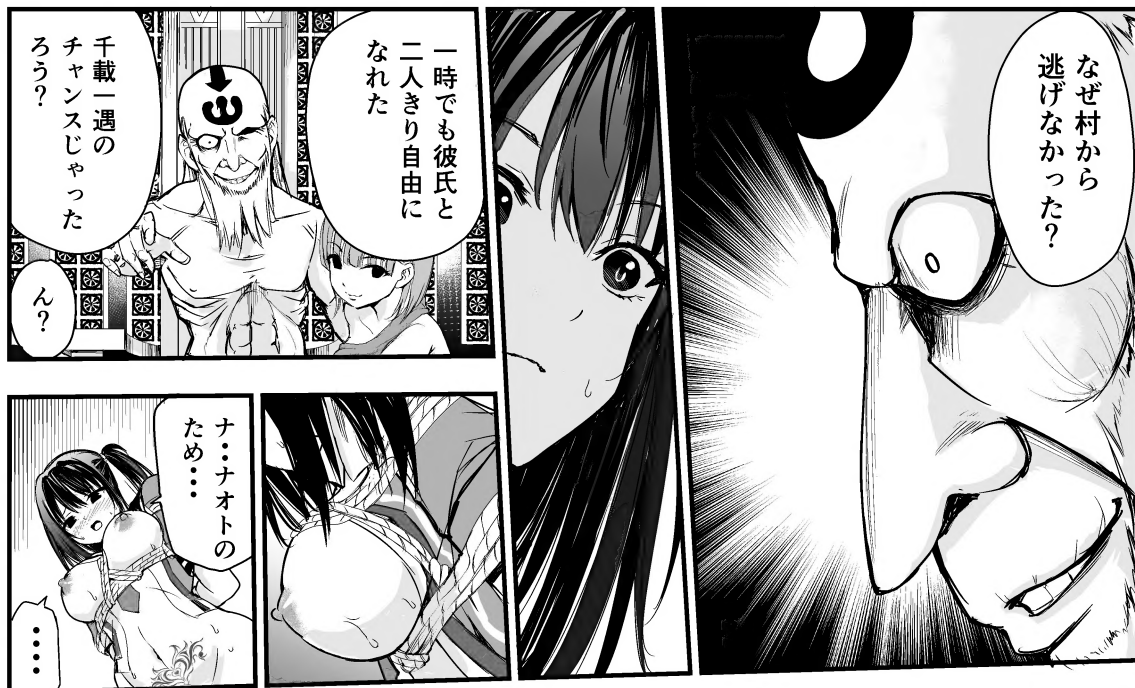
ここで逃げたら探索しきらないまま・・・！

ナオトは純粋なんだ！

あんた達みたいな

汚れた人間なんか踏み込んじゃいけない世界にいるんだ！

夢を追い続けて欲しいの

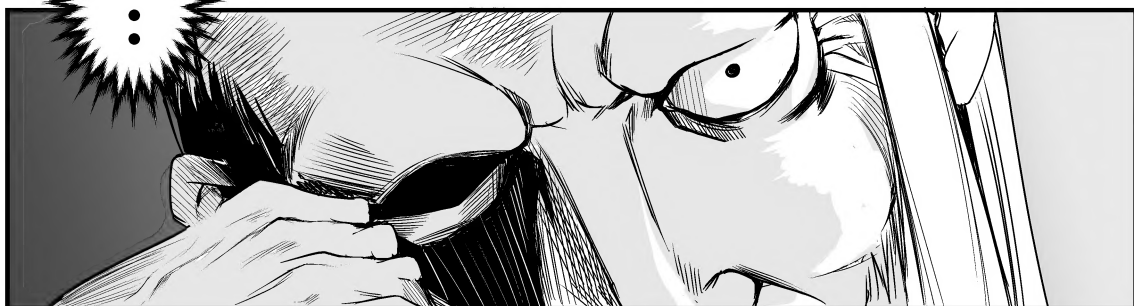
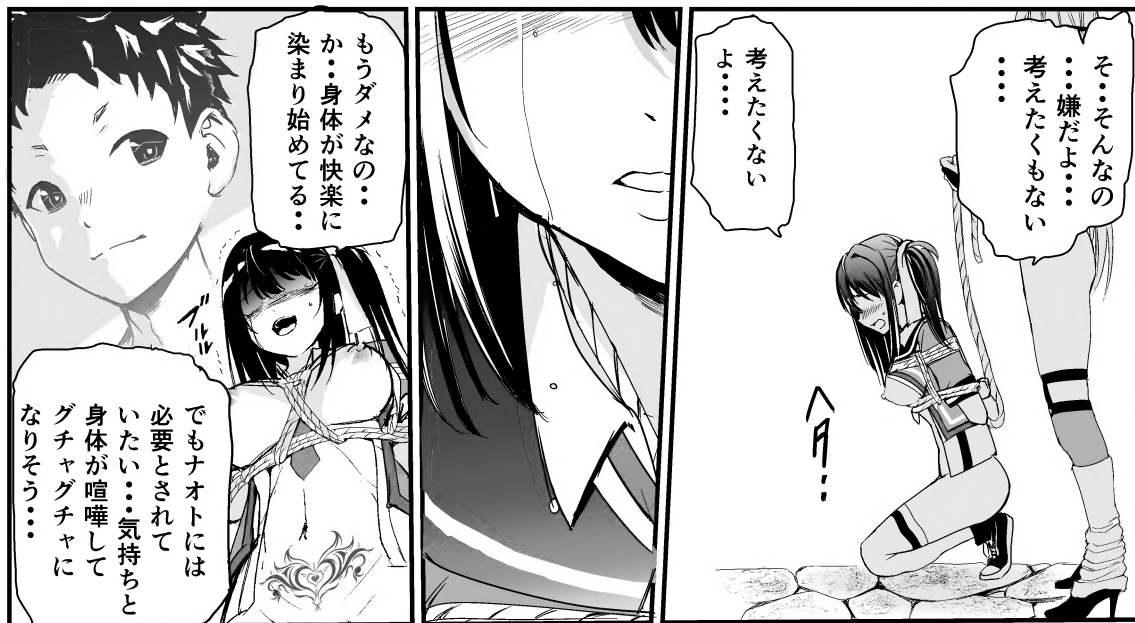
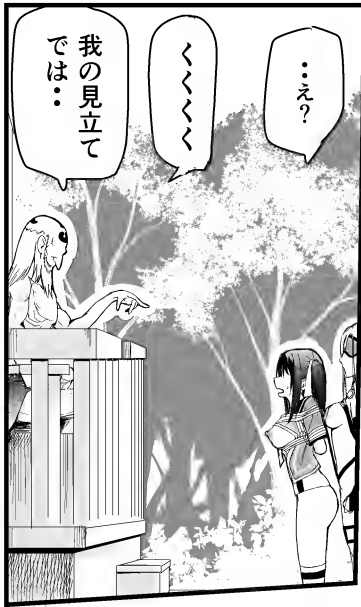
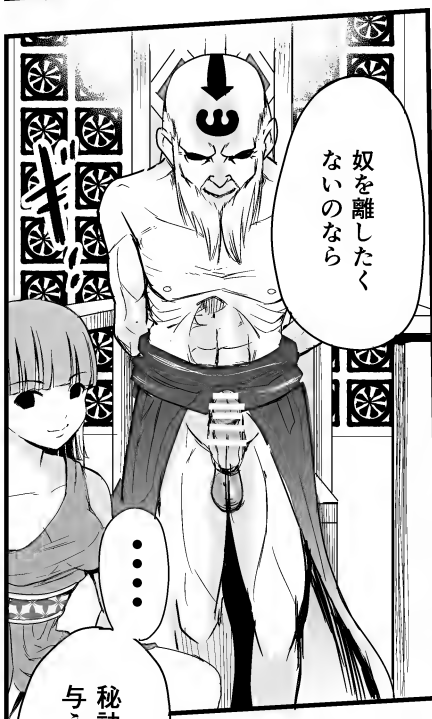
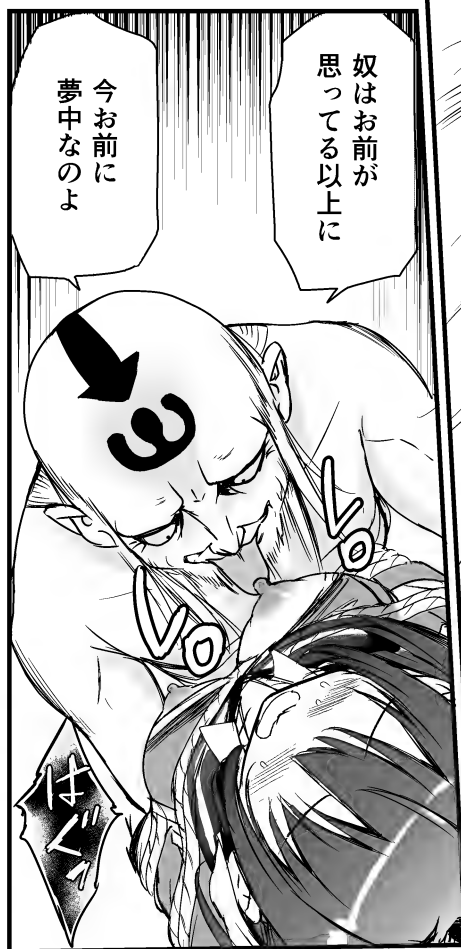
だから・・・

私はその背中を支える存在じゃなきゃいけないの！
ほう・・・頑なな想いの根っこはここか・・・
ならば・・・
トク
トク
正式に我が巫女になればよい
この村をより知れる・・・その体験を半端者に教えてやるのよ
ふざけないで！
あんたは私を孕ませたいだけでしょ？
自分の子供を失った想いを引きずって
身体の相性がいい子を巫女に仕立て上げてる・・・そうでしょ？
巫女になんかなったらもうナオトと一緒にいられない・・・！
軽蔑して私から離れていく・・・・・・

だっ・・・だからお願い!・・・これ以上私達を・・・・

引き裂こうとするのは・・・・止めてよぅ!

ググッ

・・・・

本当にそうかな?
…え?
くくくく
我の見立てでは・・
巫女になれば奴はアヤミを遠くから見続けて興奮する
そうは思わんか?
ハァ
ハァ
・・・・
奴を離したくないのなら
・・・・
秘訣は刺激を与え続けること
ヒタ
ヒタ

アヤミが手綱を握れ!

奴はお前が思ってる以上に

今お前に夢中なのよ

レロ

レロ

はぐっ

ズズズズ

その巫女の衣装を纏いこの先の祭壇に来なさい

そこに・・・艶がり村を象徴する舞台が待っておるぞ?

ニター

なっ

フフフ

！

今ナオト君は父と同じ牢に入ってるわよ？

ムニュ

この村は治外法権だけど

村には村のルールがある

んぐ

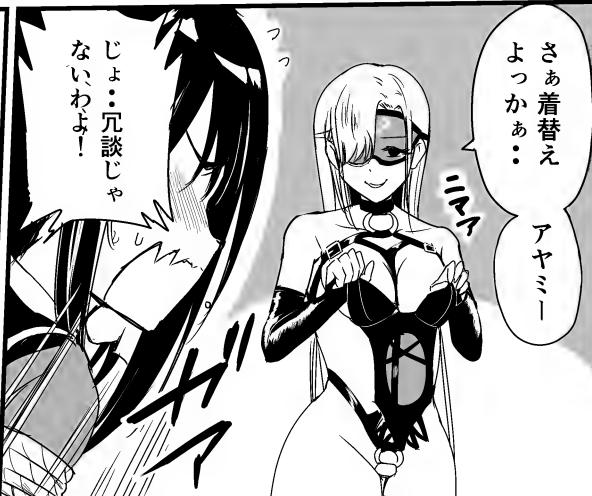
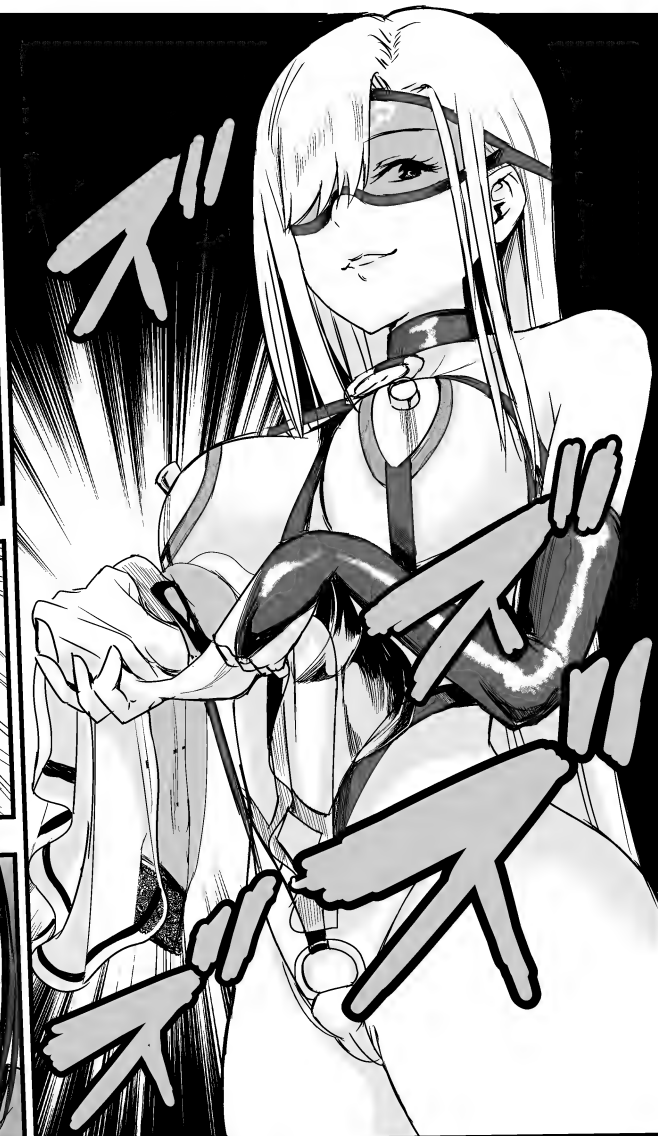
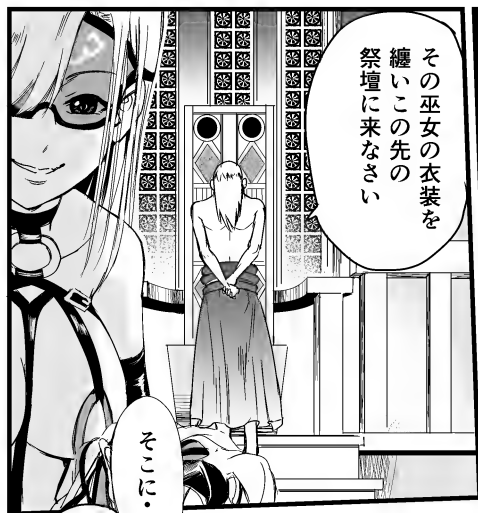
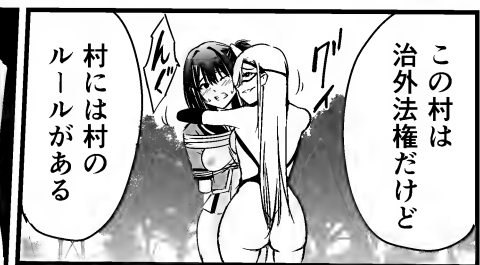
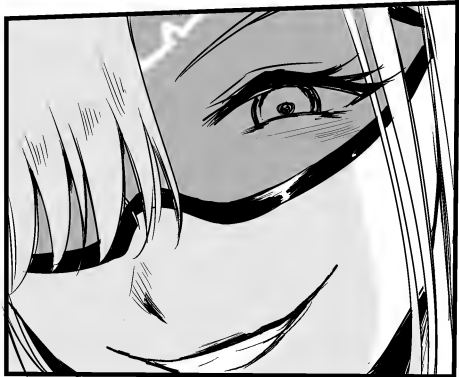
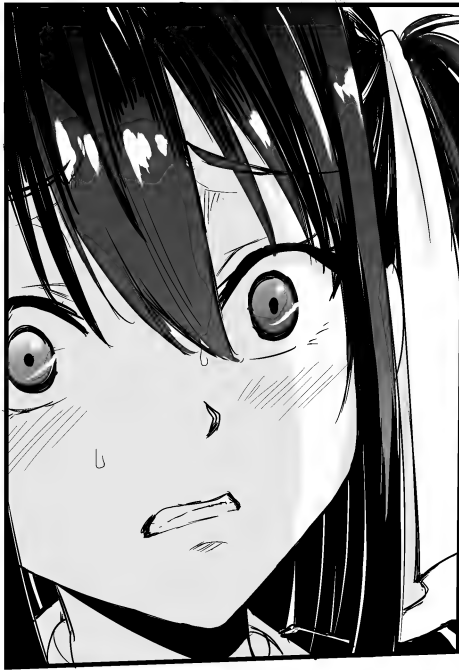
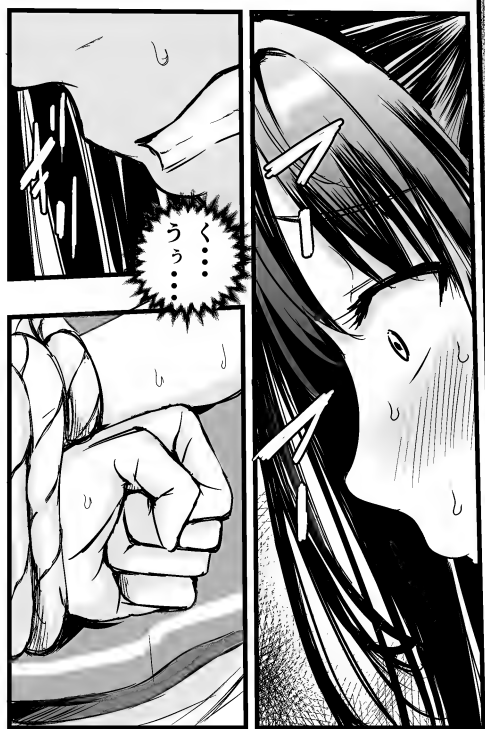
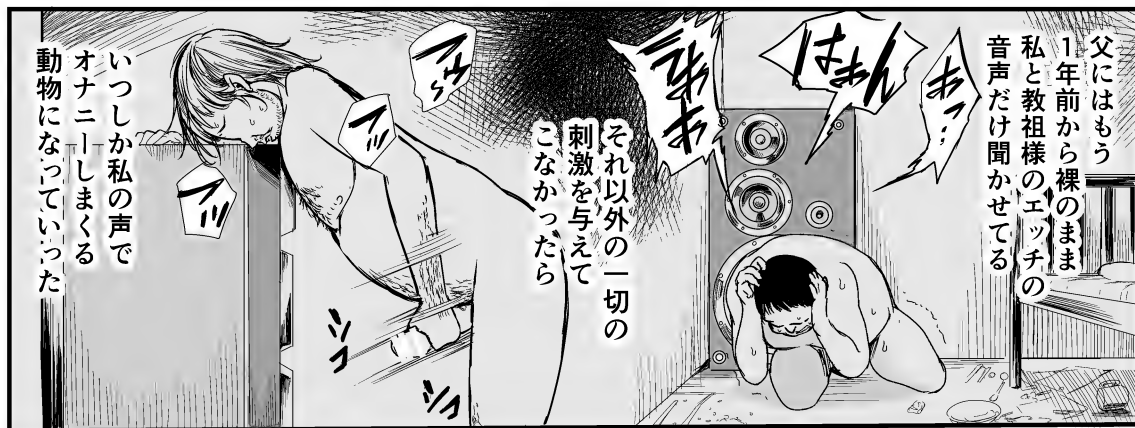
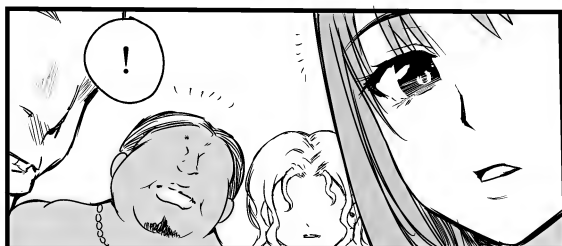
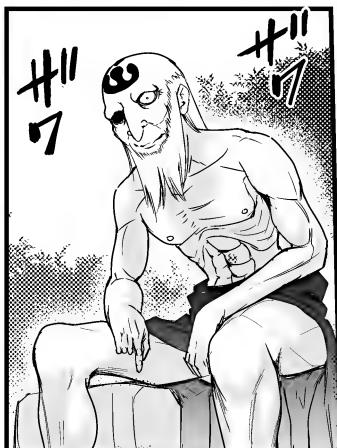
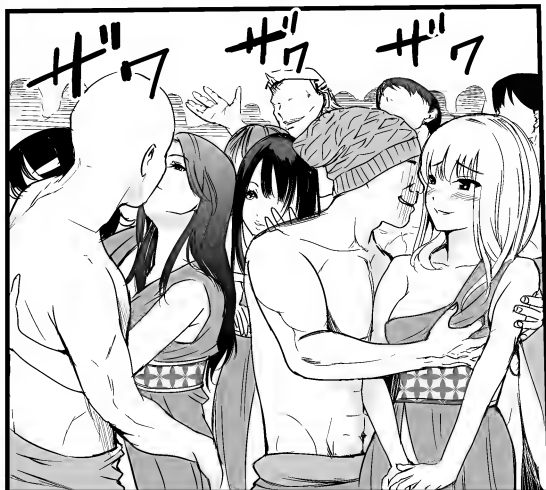
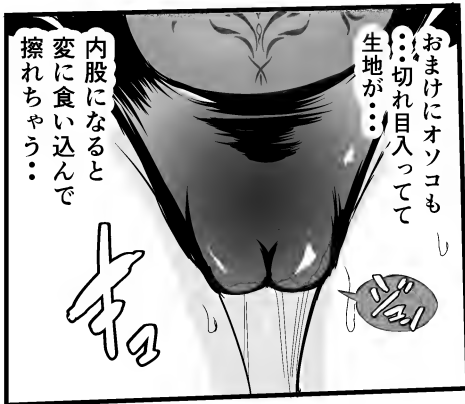
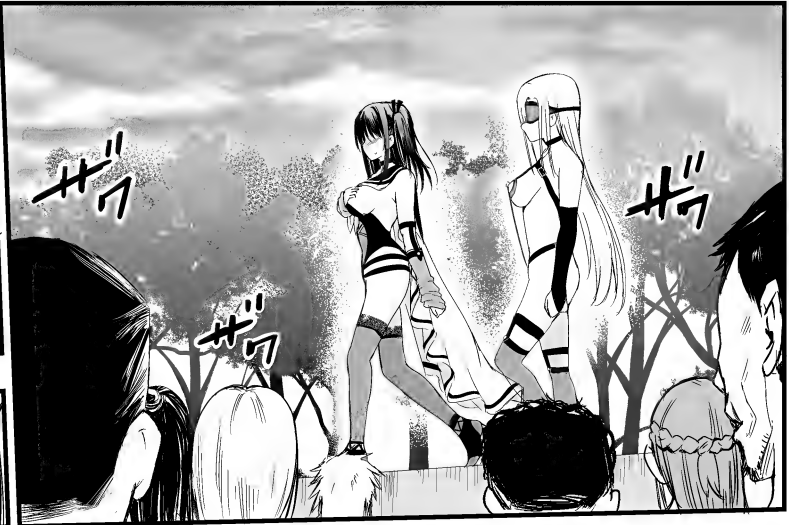
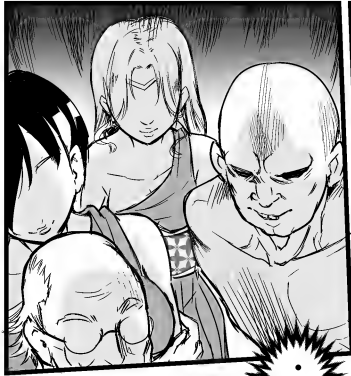
それを侵した者はあの塔に入れられるのよ

そしてナオト君は教祖様を殴りつけた

ッ……

それはとてもとても重い罪なのよ？

父にはもう
1年前から裸のまま
私と教祖様のエッチの
音声だけ聞かせてる
はぁん
それ以外の一切の
刺激を与えて
こなかったら
いつしか私の声で
オナニーしまくる
動物になっていった
おかげで今の父は
男相手でも関係
ない・・・
性行為だけが
生き甲斐の
獣となった
そんな父と
ナオト君は
同じ牢に・・・
愚図愚図して
たら彼のお尻は
どんどん拡張
されちゃう・・・
かも
あっ・・・
うぅ・・・
それはそれで
面白いけど・・・
く・・・
うぅ・・・

アーアー
ザワ ザワ ザワ
ザワ
ザワ
!

ザワ
ザワ
ザワ
・・・・
クチィ・・
キュッ
ドキ
うぅ・・・イヤらしい
・・・何なのよ
この恰好・・・
ドキ
ドキ
スケスケで淫紋
まで丸見え・・・
乳首だって隠し
きれてないじゃない
おまけにオソコも
・・・切れ目入ってて
生地が・・・
内股になると
変に食い込んで
擦れちゃう・・・
キュ
フフ・・・よく
似合ってるわよ
アヤミ
完全にこの
村に溶け込ん
でる
・・・・

チョイチョイ
…
コツ
コツ
ドキ
ドキ
んぅー

かなり看守にもほぐされたようじゃな？

なっ・・・・

汗と下半身のフェロモン臭が鼻腔を突き刺してくれるわい

ふぉほほ

ほれ

おかげで我も・・・・

たぎってきたたぎってきた・・・・ふふふ

・・・・

さぁ皆も待ちわびておる

今宵の宴を始めようぞ？

・・・・

まずはフェラじゃ

この村を知りたい彼氏のために

アヤミが身を挺すのなら

我も助力を惜しまぬぞ？

くくくく

み・・皆が私を見てる

期待と欲望が混ざったような目で・・・・

ま・・まるで私までこの村の一員になってるみたい・・・

クネ
クネ

こ・・こんな恰好の私を・・・・

パ
ちゃ

あぁ・・・・
おちんちん・・・
ビクッ
ビクッ

そっそうだ
これも
艶がり村を
知るために
仕方なく
そう仕方なく
だから・・・・

ジュプ
グポ
ズルルルゥ

!
あぁ・・・・
来たぁ!
これっ
すっごい

あぁ・・私と同じ
・・洗礼を受けた子
・・・いっぱい・・

ビクッ
ビク
ビク

共有してる・・・
教祖と一緒に
感じてる

私の愛撫で
・・・・！

ジュルルル

トロー

ハァ
ハァ
ペチァ

ふぉほ
どうじゃ？
自分の舌遣いが
自分に帰ってくる
感覚は

格別じゃろう？
ハァ
トロー

！

あ・・出る
・・・もう？
は・・早いよ
せーし
出しちゃう・・・！

あっ！
イグイグっ
イグーッ！
イグイク
イッてる！
ああぁぁん
あっはぁ
イク
いっちゃう！
イグ
イク
んはぁぁ

どうじゃ？我が淫紋の効果は
・・・・
皆同じタイミングで絶頂しておる
お布施をしてまで巫女になりたがる理由は正にコレよ
大勢でいるほど共有効果を実感できるじゃろう？
ジュルルル
んっ♥
ほれアヤミよ・・
次はどうする？
ぷぁ
はむ
んむ
・・・・

もっと自分から
教祖様とエッチ
すれば・・・ナオト君も
興奮するよ？
ブル
ブル
・・・・
ギシ
フラ・・・
ギシ
フー
フー
クチィ
ハァ
ハァ
ハァ

クイィ
ヒク
ツー
ヒク

あ・・だっダメ・・・何・・やって・・・・
入れちゃ・・・ダメ・・止まって アヤミ・・・！
フー
フー
ムズ
ムズ

ここで屈したら・・・ホントに取り返しつかない気が・・・・
あぁ・・・でも・・・・

でも・・・
ジュん・・

あぁーもう
入れたい！

入れたい！

入れたい！

入れたい！

入れたい！

ムズ

ムズ

ムズ

ブッ

ヌゥー

ブッ

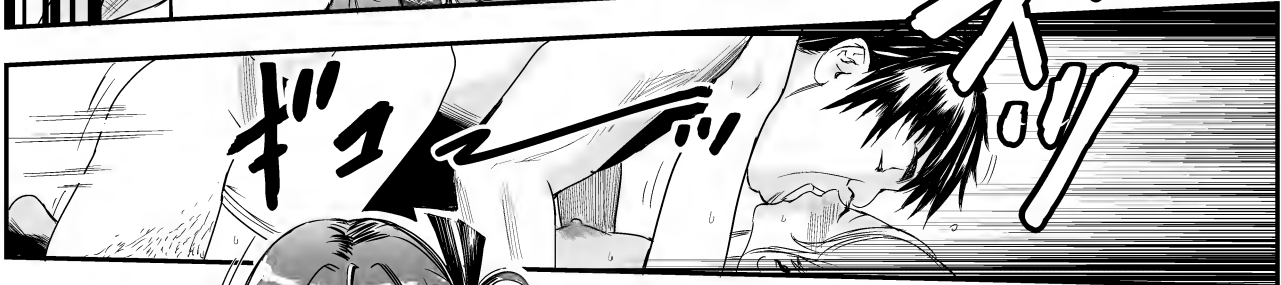
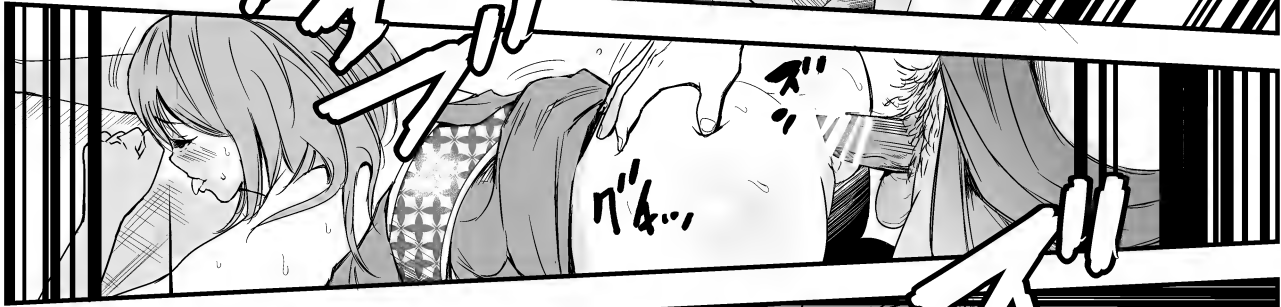
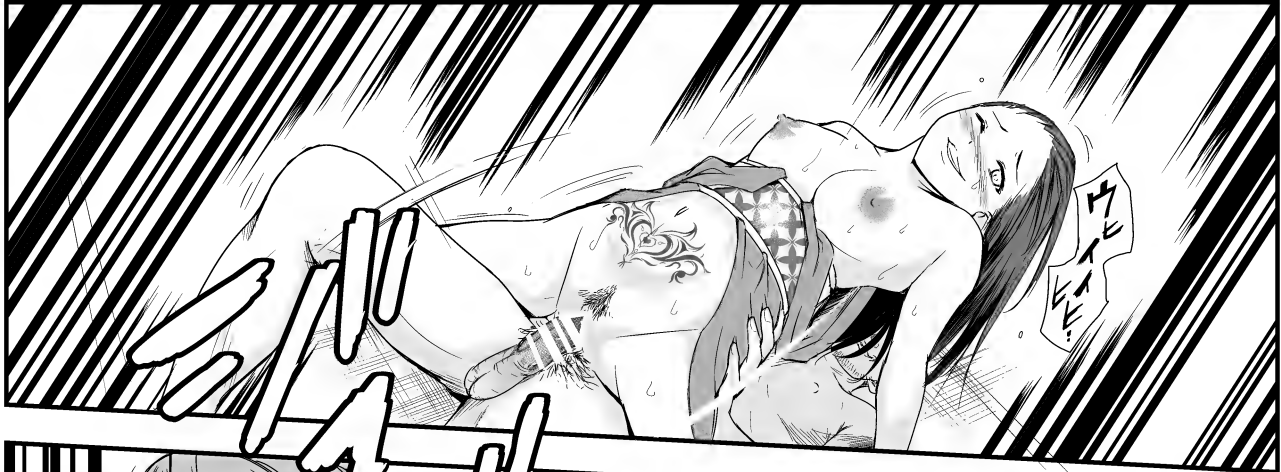
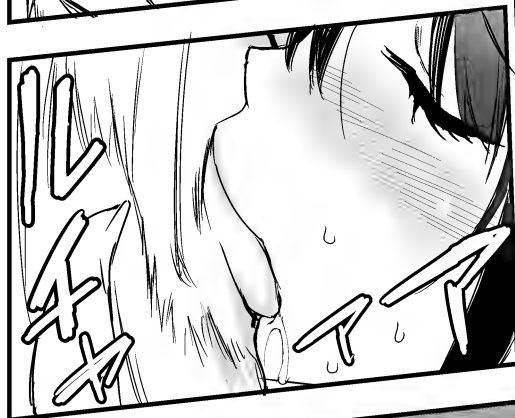
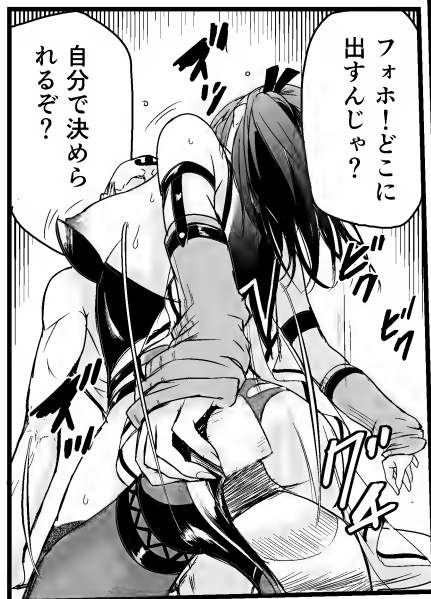
い・・・いいよね？
ナオト・・・

この村を知る
ためだもん！
きっと・・・きっと

喜んで・・・
くれるよね？

ミッ
ドリ
イイ!!
ジュブブ
あっ
あっあああ
おおおお
あ♥
ゾク
ゾク

……っ
グチュ
ズッ
！
……
ズッ
ズッ
ヌキ
あっはぁ
あ
ジュ
あ・・は
はは・・は
す・・すごっ
ジュ
ジュ
きもち・・きもち
ィィん
来てる
来てる—

どうじゃ？今アヤミがこの村を快楽で支配しているようじゃろう？
…
…
アヤミが腰を振れば
洗礼を受けた周りの女子の喘ぎ声が木霊する
これこそが愉悦の景色！
巫女の狂宴！
これが艶がり村！
アァイ
ズブッ

これこそが艶がり村の醍醐味よ！
わ・・私が支配している・・・？
こ・・・こんなに気持ちいいことを・・・？
こ・・・これが・・・・
アッ！アァァ
アァァ
アッ
アッ
ズチュッ
ズブブ

ウヒィイヒビ!
ズブブ
ズッ
グチュッ
ズロッ
ギュ〜〜ッ
あっ♥♥
き…ち
…!!

ヒヒヒ・・・
すっかりこの村の
顔になったのう
ん♡
この貴重な体験は
彼氏も喜ぶぞ？
あ・・・ぁぁ
そ・・・そうだ
ナオトに・・・
教えなきゃ・・・
この村・・・
この村イイ・・・！
すっごくイイ
って・・・！

あぁん！教祖様ぁ！

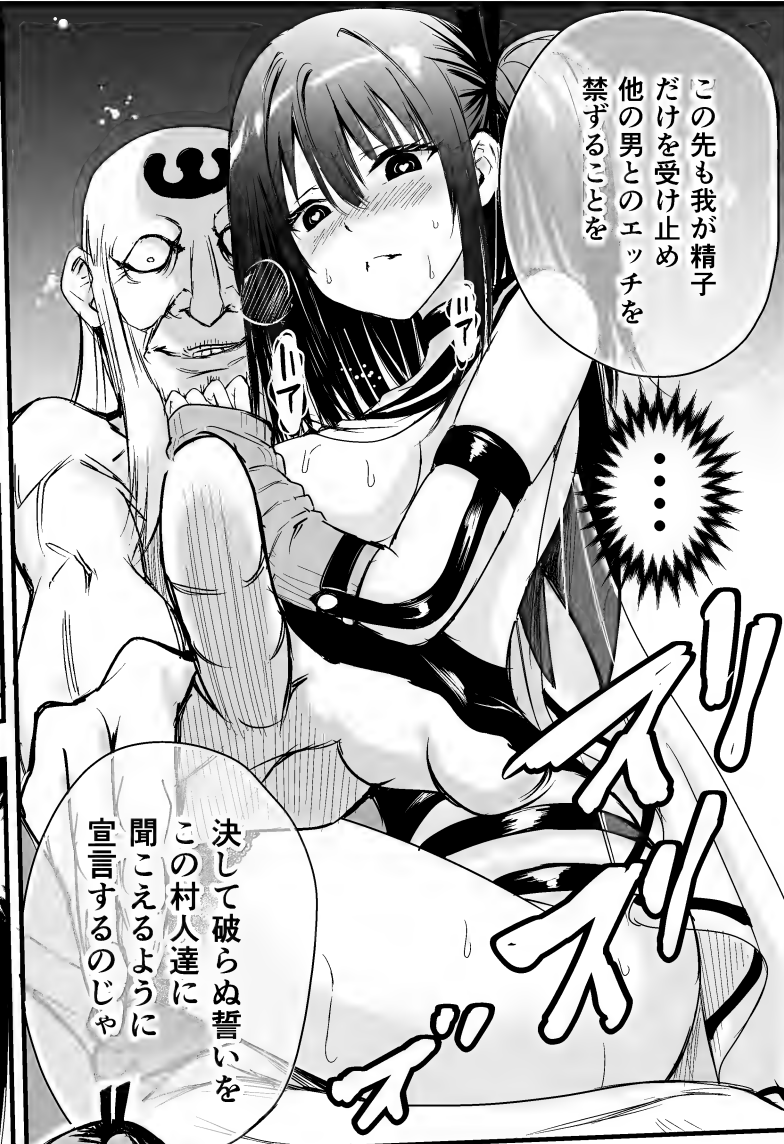
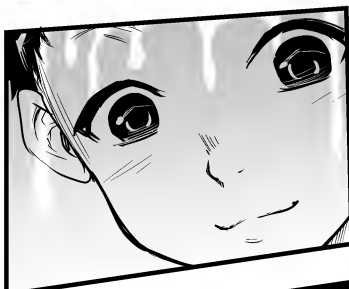
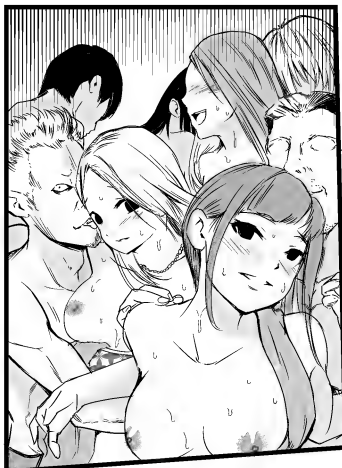
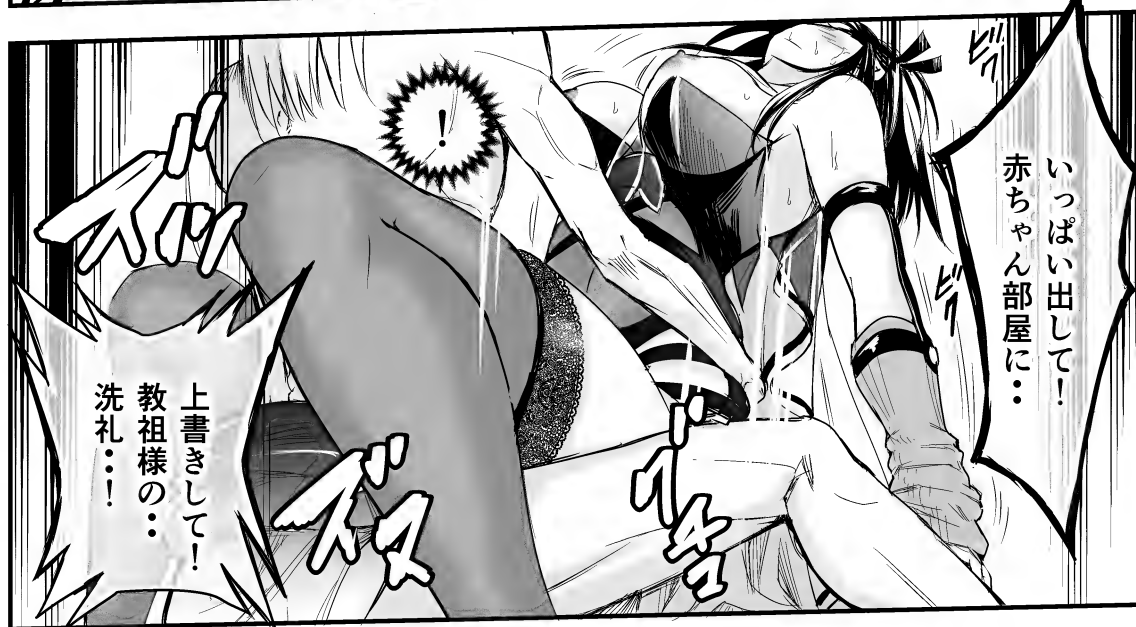
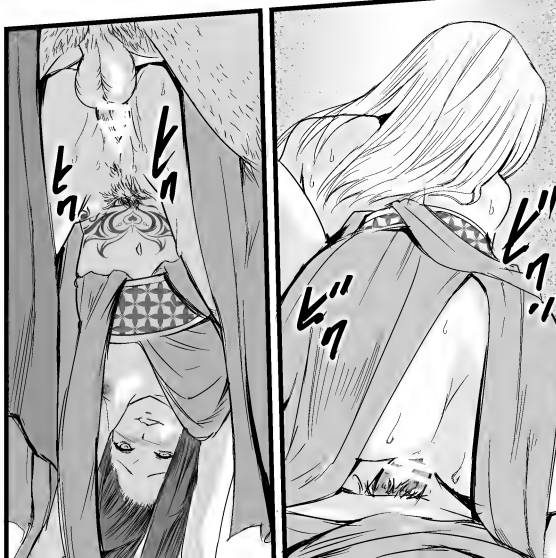
出ちゃうー！出ちゃうよせーし！

フォホ！どこに出すんじゃ？

自分で決められるぞ？

ここで中に出せばまた淫紋効果が4日は消えんぞ？

アッ

アッ

この先も我が精子
だけを受け止め
他の男とのエッチを
禁ずることを
・・・・
決して破らぬ誓いを
この村人達に
聞こえるように
宣言するのじゃ
あ・・あぁ
も・・もう
なんでも
いいです
・・・・
巫女でも
なんでも
こんな体験・・・
止められない

では誓うのか?
ち・誓います!
アヤミは教祖様と
だけエッチします!
これからは村の
一員として・・・
教祖様だけの
中出し巫女に!
絶対破りません!
だっだからぁ・・
!
いっぱい出して!
赤ちゃん部屋に・・
上書きして!
教祖様の・・
洗礼・・・!
くくくくく
くく・・・!

ああぁぁぁ
くるくるくるくる
くるくるくるくる
来るぅぅぅ
イクイクイクイク
イグイグイィィ
凄いのがあああ
ががががががあ！

あぁ
アハ
あ・・はっ
ゾク
ゾク
ドクッ
ドク
ドクン
ゴポッ
ゴポ
いっくぅん
で・・出てる
うぅぅ
いっちゃううぅ
イクッ

はぁ
はあっ
ヒヒヒヒ
良く頑張った
のぉアヤミよ
あっはっ
これでお前も
正式に村の
一員よ

気に入ったかのぅ
アヤミよ?
我のイチモツは

あぁん好きっ
好き好きぃー!

教祖様ぁ
ぁぁ♥

ゾクゾク

おちんぽ・・
抜くのやぁぁ

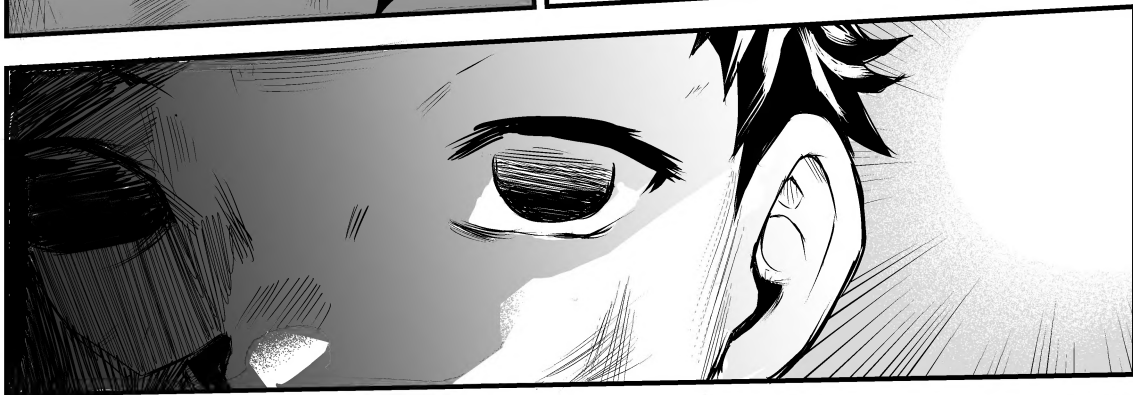
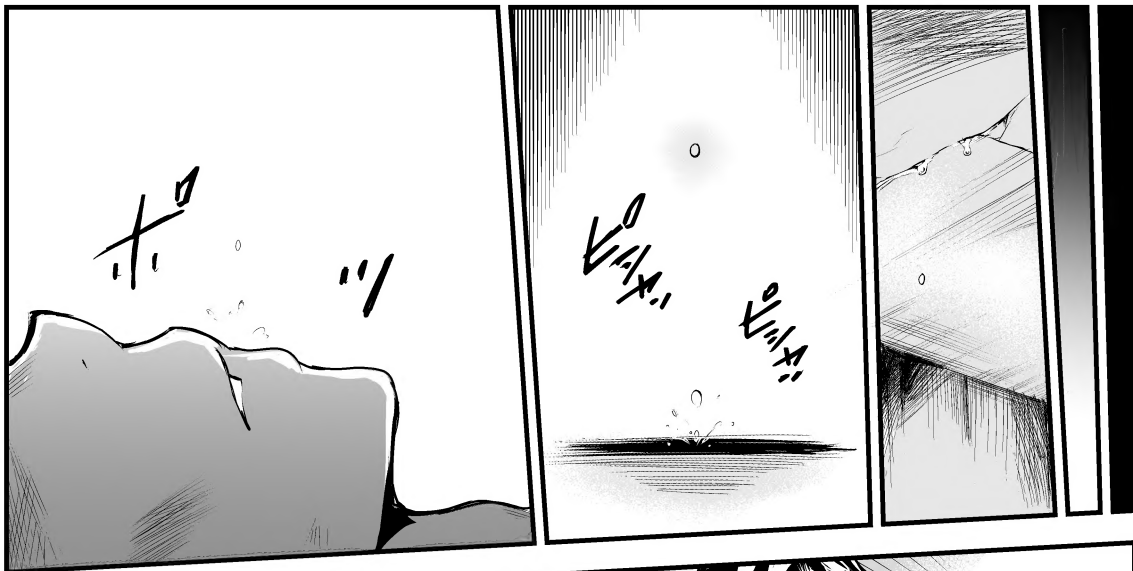
おま○こもっと
する・・・もっと
・・もっとぉ♥

くくく
よしよし

今夜は村の
一員となった
祝いじゃ

夜通しちんぽ
漬けにしてやる

あっ

ポツ
ピシャッ
ピシャッ
ガリッ
ガリッ
ドロ…
END

# あとがき

この度は艶がり村5をご購入いただき
誠にありがとうございます。
今回はモブキャラがどうしても大量に
描かないといけなかったので
滅茶苦茶大変でした。タイトルの象徴とも言える
描写になる回だったので、その分
読み応えがある物でありたいと思いひたすら描き続けました。

一応ここで終わりではありません。
アヤミ編としてはここが区切りに
なりますが、次回は別の視点から
皆様にお楽しみいただこうと思ってます。
もう少しで終わると思いますが、最後まで
お付き合いいただけたら嬉しいです。
ではではまた次回お会いしましょうー！
良かったらtwitter,pixivのフォローヨロシクですー

Twitter id:nao3675

Pixiv id:29431100